

ふたなり学園

特殊性癖科

調査報告書

秘



転入生（特務試験官）

北岸　こおり

主人公

とある任務のため特殊性癖科に潜入する。

一般的なふたなり少女を装うが、  
自身のあらゆる部位を変化させる能力を持つ。  
交尾より自慰が好き。



真面目な爆根図書委員

来瀬 レイカ

普段は大人しい文学少女。  
日ごとに肥大化する自身のモノに悩まされている。  
射精量は現在21.4L (随時更新中)



秘密のふたなりお嬢様

# 胡桃 みるく

超お金持ち。高飛車で傲慢。そして剛毛。強体臭。  
足の裏に重大な秘密が…



豪槍の級長

## 桃笠 フローラ

特科の長。神出鬼没の妖艶な娘。

「目が合うと搾り殺される」と評される。

アナルペニスと複根を併せ持つ。




人里離れた山奥に、ひっそりと佇む秘密の学園があった。

ふたなり学園——

生徒は全員「両性具有」……  
女性器と男性器を併せ持つ者。

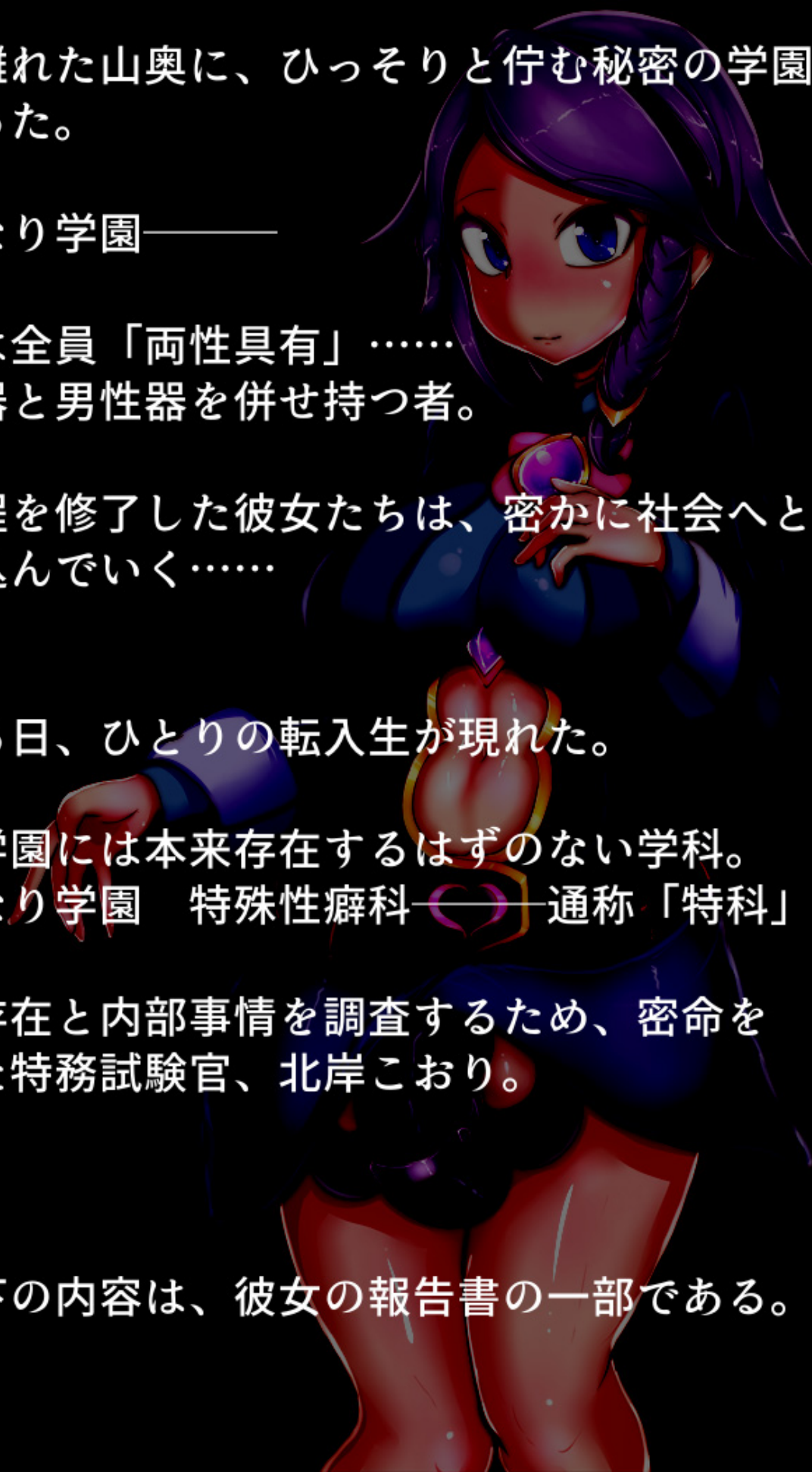
各課程を修了した彼女たちは、密かに社会へと  
溶け込んでいく……

—ある日、ひとりの転入生が現れた。

この学園には本来存在するはずのない学科。  
ふたなり学園 特殊性癖科  通称「特科」

その存在と内部事情を調査するため、密命を  
受けた特務試験官、北岸こおり。

—以下の内容は、彼女の報告書の一部である。





——コードK.Kより送信

転入してから2ヶ月経過。

今の処、至って通常の学園生活を送る。

特科に関しては噂の域を出ない。

皆、口を噤んでいる。

もう少し緩ませる必要があるようだ。

数人、目星は付けた。

今日はその一人の部屋に呼ばれている。

何らかの糸口になりそうな、予感。

身体が少し疼く。

「いいもの」が見られそうな時は…

いつも、そんな感じがする。

相談がある、と言われて招かれた部屋で見たのは…

「うう……いつも……こうなっちゃうの……」

頭を超そうかという程の、巨大なペニスに悩む少女。  
どうやら、当たりを引いたようだ。

「……とても、良い……よく見せて……?」

「……はい……」

じっくりと舐め回す様に観察する。





「興奮すると手が付けられなくなって…そのまま…」  
「それはいつから…？」

会話しながら、距離を詰める。しかし、見るだけだ。  
決して触れないように、気を遣いながら……

「……う……あ……」

すっかり上気した様子で、呼吸が荒くなっている。

「ねえ…レイカ？…射精するところ、見せて？」

「……ッ！……」



「……あ……ふ……う……ッ!!」  
鎌首が激しく震え、精液が漏れ出す。

「そう……そうよ……もっと……自分を曝け出して……?」

「うああっ……く……あ……ッ」

「身を任せるの……全身をペニスに委ねて……」

『欲望を吐き出しなさい』



堰を切ったように、欲望の黄濁が迸る。

「——ッ!!」

素晴らしい逸材だ。彼女は恐らく特科の一員……

私も思わずペニスに手を添える。

とても興奮して、期待している……本番はこれからだ。  
瞳を通して、命令する。

『解き放ちなさい』





黄ばんだ固形物が落ちる音が響く。  
お互いの荒い呼吸音と混ざり合って、高まる。

まるで別の生物であるかのように蠢き続ける陰茎。

溜め込み続けた澱を、全て吐き出させる。  
全ては、これからだ。

「うああああッ……はっ……ああッ……!!」  
「私……もっ……」

びちゃり。

「んん…く…ぷあ……っ」

「う…ふ…明日……そうね、プレイルーム……」

「……は…い……」

獲物にしっかりと「マーキング」をする。

制御する方法を教える、と告げて……

その晩はふたりで思い切り、愉しんだ。

